



「こともしちかわ」は、小・中学生が子ども記者となり、テーマを決めて取材しています。(年2回発行)

江戸川は、市川市を流れる川のかで代表的なものです。私たちになじみの深い江戸川は、街中を流れているため、生き物がすみにくいと思っていませんか。そこで、今回、私たちは、江戸川にどんな生き物がいるのか、自然博物館の学芸員・金子さんに話を聞きながら、市内の江戸川流域、上流の国府台から河口付近の行徳橋まで歩いてみました。(齊藤美紅)

珍しい花が見られる
国府台里見公園下の河川敷

里見公園下堤防は河川敷が広いので、生き物が好みやすい場所です。原っぱや空が広いので、ウグイスやタカなどの鳥が1年を通して80種類以上見られます。

冬には残念ながら見ることができませんが、秋にはフジバカマが花を咲かせます。フジバカマの群生は、千葉県内ではこの河川敷でしか見ることができない珍しいものです。フジバカマは、日本各地でも河川改修などの影響で少なくなっています。この場所は、フジバカマがあることを知っていた地元の人たちが、堤防を造る前に移し替えなどをして、ずっと大切に守っているのです。(井上颯太)

生き物がたくさんいる江戸川!

生き物がすみやすい環境を大切に

生き物の憩いの場
ビオトープ



江戸川の周りには、生き物を守る場所があります。国府台と行徳橋の中間くらいにある市川南ビオトープも、その一つです。ここは、土の中に眠っていた種が目覚まして、植物が茂りました。トンボなどの昆虫や、ミズアオイなどの小さな植物が暮らしていくのに大切な場所です。作った当時は、ただ穴を掘って水を入れただけのような状態でしたが、今では、立派な生き物の住み家となっています。(前田由布子)

行徳橋の秘密!
川と海を分ける境目

日本中でも貴重な市川市の天然記念物ヒノマイトトンボは、飛ぶ力が非常に弱いので、飛んでいるところはあまり見られませんが、行徳橋周辺にもいます。

その行徳橋より上流はフナやコイが、橋から下流はハセガ、川の中にすんでいます。行徳橋が境目になっている秘密は、橋の下が水門になっていて、川の真水と海の塩水が混ざらないように工夫されているからです。(竹内秀人)

里見公園下の江戸川の様子



秋に花を付けるフジバカマ (自然博物館提供)

フジバカマの生息場所



市川南ビオトープ



江戸川の自然観察の案内をお願いした自然博物館の金子さん

川と海の水を分ける行徳橋



夏場はこの辺りでトビハゼを見ることがもできます。



左から、子ども記者の第五中学校前田、齊藤、竹内、井上



渡り鳥のオナガカモが羽を休める様子も見られました。

まとめ

江戸川の環境が好きな生き物はたくさんいました。江戸川やその周りを汚してしまつと、生き物が少なくなってしまう。皆さん、江戸川が汚れないように、そして、江戸川周辺に見られるたくさんの生き物がすみやすい環境を壊さないようにしましょう。江戸川の生き物に、少しでも関心を持ってもらえるきっかけになればうれしいです。(齊藤美紅)

クロスワードパズル

◎江戸川の周辺にたくさんいるのは?
A人間も魚も鳥も植物も、みんな□□□□

応募方法 はがきに答えと「こともしちかわ18号」の感想、住所・氏名・電話番号・学校名・学年を書き、4月30日(木)まで(消印有効)に市役所公民館(〒270-0292)に投函してください。当選者から抽選で30人に、図書カードをプレゼント。

よこのカギ

- 1 ヒママ◯◯◯◯◯
- 2 秋のくだもの
- 3 はさみで◯◯
- 4 湖にいる丸い緑の生き物
- 5 行徳の海の幸「海苔」は何と読む?
- 6 地上の反対

□の文字を使って答えてね

1		7		8
2	9		3	
		4		
5				6

たてのカギ

- 1 「海豚」は何と読む?
- 2 「感情」の別の言い方をカラス、スズメ、ハトをまとめる
- 3 野球、サッカー、バスケットで使う物
- 4 「ルール」の別の言い方

17号の答え

けいたいでんわ

正解者のなかから抽選で30人に、広報担当オリジナルグッズを発送しました。

け	あ	さ
し	し	ま
い	ご	し
か	む	え
た	い	

★「暮らしに役立つテレホンガイド」は6面、「市民の広場」「善意の花園」「安心・安全ひとくちメモ」は7面に掲載しています。